



WYCCI設立30周年記念  
第3回小中学生英語スピーチ大会を終えて

茨城県世界青少年コミュニケーションクラブ(WYCCI)  
理事 浦崎笑子 (茨城大学工学部3年)

私は大学二年生の頃からWYCCIの会員としてお世話になっており、様々な行事に参加させて頂いています。中でも、小・中学生のスピーチコンテストは初めて担当させて頂いたということもあり、思い入れのある行事の一つです。

今年は、7/31に開催され、12人の小・中学生が参加してくれました。私は昨年に続き、司会を担当させて頂き、参加者と外国人を含む審査員の方を繋ぐ役割も担っていました。英語での司会は少し緊張しましたが、暖かい会場の雰囲気のおかげでなんとかこなすことが出来ました。

それぞれの参加者は自由に英語でスピーチをし、各審査員からの簡単な質問に英語で答えます。スピーチは十人十色、個性が溢れるものばかりで、全ての参加者のスピーチを楽しみながら聞くことができました。また、参加者たちの本当の考えや思いが審査員とのやり取りで見ることが出来る質疑応答の時間が大好きです。準備してきたスピーチだけでなく、緊張している中、その場にて英語で質問に答えることができる小・中学生の姿を見られて私ももっと頑張らなければ、という気持ちになりました。

私がWYCCIで活動する中で大切にしていることの中に出会いがあります。新しいことに気づかせてくれ、新しい自分を発見できるからです。小・中学生のスピーチコンテストの参加者達、WYCCI会員の方々、外国人の講師の方々、全ての人から得るものがたくさんあります。学生である私にとっては社会にでる前に様々な機会も頂けているとても貴重な場所です。これからもWYCCIで活動し、もっともっと成長していけるように頑張りたいです。

交流の広場

私は幼いころから両親の仕事の関係で日本に触れる機会がたくさんありました。日本のカルピスや漫画などの土産を貰う度に、「こんな素晴らしいものがいつも手に入る日本人は本当に幸せだ。」と思い、将来の夢は「日本人になる!」、そして「漫画に出てくる“青春”を味わうため日本の高校に進学しよう!」と決心していました。

鹿島学園高校に留学して日本人生徒と共に通常の授業に参加していますが、やはり最初の頃、当然のことながら全て日本語で行なわれる授業に私はとても歯が立ちませんでした。特に古典は日常生活では使われない単語を覚えるのに苦勞し、私はこてんこてんでした。そして数学! ベトナムでは普通に中学校から使われている計算機が高校になっても利用できず、三角関数を使う複雑な計算も頭の中でできるなんて「日本人高校生はみんな人型電卓なの?」とも思っていました。私は2年になってやっと理解出来るようになり、ちょっと楽しく感じ始めたところです。私は鹿島学園高校の生徒会長を務めています。生徒会活動は大変でありながらもやりがいを感じています。イベントの運営は責任が大きく、会議で議論を何回も重ねた後、やっと実行できます。今は、常に新しい世界中の情報が提供できるようにと生徒会新聞を作っており、日々記事作りと編集に追われています。

16歳になった今、さすがに「将来の夢は日本人!」とは言いませんが日本の建築分野に大変興味があります。日本では地震が多く起こりますが、これに耐えられる建築技術が建物に必要なとされています。私が最も衝撃を受けたのが日本の建物のスロット式。地震で揺れても頑丈で建てられているのはすごい! いつか日本の建築を勉強し、ベトナムにその技術を持って帰りたいと思っています。



YOUNG EYES  
日本の「青春」



鹿島学園高校 生徒会長  
ダントラン タオ ニー



ぶどう狩り 留学生のアクティビティにて

古河市国際交流協会

わが町の外国人リーダー



ワン チン  
王 清(柏崎 清美)さん  
古河市在住(在住歴17年)  
中国(モンゴル自治区)出身

王 清さんをご紹介します

古河市の在留外国人数は約2,960人、フィリピン人が約900人と最も多く、ついで中国人が約540人と両者で約

50パーセントを占めています。彼女は古河、総和、三和の国際交流友の会などが合併し、古河市国際交流協会になった2008年6月3日より早い15年も前から、国際交流事業と関わりを持ち、この間、古河市でモンゴル舞踊を市民に教える講座をもったり、古河市の様々な催しで、モンゴル・チベット舞踊を披露して来られ、外国人だけでなく古河市民に広く認知されています。長い間、文化交流部会やワールドキャラバンで活躍して来られ、今年度からは、古河市国際交流協会の五専門部会の一つの文化交流部会の会長として、国際交流に関する諸事業の企画、立案及び実施に、国際感覚あふれる人材として、当協会にはなくてはならない存在です。また、語学交流部会が主催した昨年の初級日本語ボランティア講座や今年のレベルアップ講座にも積極的に参加され、日本語や日本文化に対する好奇心を絶やさぬ努力家でもあります。今後ますますのご活躍を期待します。 古河市国際交流協会 会長 山口 賢一



王 清さんにお聞きしました

○古河市の国際交流活動に参加してよかったこと、感じていることなど教えてください。

古河市に住んでもう17年になりました。15年前に日本語の勉強と友達作りのため、古河市の国際交流活動に参加しました。日本語教室の先生たちが親切に接してくれたことを、鮮明に覚えています。

先生達と一緒に、ワールドキャラバンの活動を通して、10年以上子供たちに中国のことや中国の少数民族のことを教えたり、私のモンゴル舞踊をお弟子さんと一緒に、古河市国際交流協会として、古河市内、茨城県内外でも披露しています。

今年からは、文化交流部会長として国際交流イベントの企画、立案及び実施に、外国人の立場から取り組み、新規会員の増加や活躍の場を作りたいと思っています。

○日本に住む外国人の方々へのアドバイスやメッセージをお願いします。

住んでいる地域にできるだけ早く溶け込むために、必要な情報を最新で正確に得られる地域の国際交流団体や市町村役場を積極的に訪ねましょう。そして出身国のことを地域の人々に教えましょう。

北茨城市市民福祉部まちづくり協働課  
国際交流員  
アリス・パッキエ

ここが違う、おもしろい!  
Across culture  
フランス人にとっての挨拶の大切さ。



こんにちは!アリスです。日本に来てから3年経ちますが、私が日本に来て一番驚いているのは今も変わりませんが、挨拶についてです。挨拶というのは、人間関係の基本だと言われています。でも、挨拶の仕方というのは、国や文化によって異なるので、マスターするのは難しいです!たとえば、お辞儀の角度もタイミングもまだ勉強中です!

「いらっしやいませ」、「お待たせしました」。日本のスーパーマーケットやコンビニでは、挨拶してはいる店員さんに対し、お客さんはどうして無言なのか? フランスでは、お店に入るときに「Bonjour(こんにちは)」と言って、お店を出るときに「Au revoir(さようなら)」と言います。カフェやレストランで、自分が頼んだ物が運ばれてきたときにも、「Merci(ありがとう)」という一言も丁寧です。

カフェ、レストランから個人経営の小さなお店まで、とりあえず基本的に挨拶は必要です。スーパーやデパートに出入りするときには言う必要ありませんが、レジで支払いをする際、レジ係の人と挨拶を交わします。挨拶をしないと、「感じが悪い人」になってしまいます。基本的に、「人の家にお邪魔する」という感覚です。日本では、学校から挨拶とか敬語などをちゃんと学ぶのに、お店に出入りするときに店員さんに挨拶をするという習慣があまりないことにびっくりしました。

フランス人の店員の態度が悪いという批判は、日本人旅行者からよく聞くのですが、フランス人から見ると、挨拶をしない日本人のお客さんの方が感じ悪くうつります。日本では「お客様は神様」と言いますが、フランス語で同様の内容を表すフレーズは「客は王様」。王様は確かにエライのですが、フランス革命時に王様の運命をご存知でしょうか?(笑) Merci! Au revoir!



フランス  
FRANCE

パリのノートルダム大聖堂前で